

第2回高浜市子ども貧困対策会議 議事要旨

日 時：平成28年10月26日（水）
10時00分～12時00分
場 所：いきいき広場2階ホール
委 員：資料1のとおり
欠席委員：春田とし子委員、
黒野盛聖委員※
※ 代理出席：亀島真治（翼小学校長）

1. 開会

2. 「高浜市子ども貧困対策会議」の公開等に関する取扱 について

会議については、非公開を原則とすることとされた。また、資料・議事録については、事務局作成後、すべての委員の了承を得た上で、公表することとされた。その際、利用者保護者の氏名については「保護者代表」と記載し、資料中、「積極的に公開」という表現は「原則的に公開」という表現に改めることとされた。

3. 前回の議論を踏まえた対応方針等について

資料4に記載の検討事項について、それぞれ意見交換がされた。委員の主な発言の内容は、以下のとおり。

1. 「子ども食堂支援基金」の寄付の充実

(1) 寄付金の使途に関すること

- 奨励金の金額は、足りないと言われていないのであれば増額する必要はない。
- 「子ども食堂支援基金」という名前がついているので、余った分は子ども限定で使っていきたい。
- 食の支援が目的なので、ステップに来ていなくても本当に食事を必要としている子どもたちにうまく提供できるような仕組みを考える必要があるのではないか。
- 長期休みの昼食をターゲットに、自発的なボランティア活動として民間が実施する子ども食堂を奨励するという方向性は一つあるのではないか。そのためにはいまある財源だけでなく寄付をどんどん集めて支援する財源を作っていくことが必要。
- あすたかに通っているひとり親家庭の小学生などの食事支援に基金の財源を充てることは十分可能であると考えている。
- 子どもが対象で目的としては食事支援。今後は、機会であったり、対象、年齢を拡大していく方向で考える。最終的な決定は協議会でしてもらうことになるが、この会議では、こうした意見を協議会に伝える。
- 対象者が限定的な子ども食堂はうまくいかないという実態がある。あたたかい食事の場を作

るということを重要視して運営していくべき。食事をハブにして、関係性が築かれ、学習支援につながっていくという可能性があるのではないかと。

- まち協で考えていることも食堂の設置が具体化されれば、目的にも合致しているので、その時は一定金額補助してもよいのではないかと。

(2) 寄付を恒常的に確保するための方策

- 子ども食堂はほとんど費用はかからず運営でき、市からまち協に出ている予算を合理化すれば、こうした活動には対応できると考えている。無理やり基金を集めるということを考えなくてもよいのではないかと。
- 商工会の理事には2月に1回、会員であれば、半年に1回くらい資料が届く。そうした資料の中に基金の広告を挟んでもらって、思い出してもらい機会にすると継続性につながるのではないかと。
- イベント等で基金を使ったことをアピールして、この基金が皆さんの協力・寄付で成り立っていること、市で随時募集しているということを周知して、新規の寄付を募っていくことが重要。
- 定期的な周知の手立て、イベント等でのアピールが重要ということ。お知らせすることは、事業にどういう成果があったのかを市民に返していく上でも重要。
- 今回、用途を拡大して目標が具体的にできればクラウドファンディングを活用する理屈ができる。
- 飲み会で割り勘したあとの端数を集めて寄付するような文化を発信してみるというのはどうか。集めたお金を市役所の募金箱へ入れるような流れができるといい。
- 現在の取組の広報をしていくことで寄付を募っていく。そのことで一定程度の継続性は担保できるのではないかと。

2. ステップの利用が困難な子どもたちへのアプローチの方法

(1) ステップライトの在り方・(2) 参加実績ない子どもへのアプローチの方法

- 学校やいろんな相談機関から子ども健全育成支援員につながっていくことを仕組みとしてしっかり担保することができればと考えている。
- 不登校、不登校傾向の子どもは、家から出られないのでステップという手立ても受けにくいと考えられる。
- 不登校に占める生活困窮家庭の児童生徒の割合は34%、生活困窮の子どもの割合が全体では10%程度であることを考えれば、不登校と困窮には相関関係が認められる。
- 終日、部活動をやることは減ってきている。午前か午後のどちらかというのがほとんど。そのため、中学校入学時の気持ちが切り替わる時にスムーズな呼びかけ・働きかけができる仕組み、流れがあれば、部活動とステップの両立ができるのではないかと。
- 生徒も最初にステップがあると認識した上で部活動を始められれば、部活とも両立していけるのではないかと。そのため、中学入学後の早い時期にステップの存在を知らせるというのが有

効なのではないか。

- ステップは午前からでも午後からでも、いつからでも参加できる。部活動を終えてからも参加できる。今年は1年生で運動部に入りながら成績を順調に伸ばしている生徒がいる。
- 部活動との関係でいえば、午前は部活、午後はステップというような組み合わせができるということについて、子どもたちへ知らせていくということが重要。
- ステップは昨年から始まった新しい取組なので、まだまだ学校の先生に知られていないのではないかと感じている。これまでの実践でステップの成果も出てきているので、そうした成果などについて情報共有していきたい。
- 学校現場ではなかなか手が行き届かないところをステップが代替している。学校以外の家庭の学習というものが公共的なサービスとして行われるという高浜市の取組が定着するとともに新しい展開が生まれてくるのではないか。
- 家族に対する支援がないと子どもが学習支援に参加することができないという問題があるのではないか。家族支援と学習支援とをどうつなげていくのかというのも一つの大事な視点。
- 年齢が低い子であれば保育所、小学生であれば、一緒に同伴できるような方策があればステップに通うことができるのではないか。
- 児童センターは土曜日にも会館しており、市内に4か所あるので、行き先はバラバラになるけど保護者が了解すれば、小学生は児童センター、中学生はステップに通うことはできる。
- ステップライトの面白いなと思うのは居場所機能。居場所機能を並行して行うことでより広く子どもが参加できたり、支援の幅が広がっていく。体制の問題もあるが、しばらく、事業として試行してもよいと思う。
- 居場所的な取組を行っているまち協もある。逃げ込み場所みたいなのところにもなっており、こちらも協力して使ってほしい。
- 色々な居場所ができるとそこからまた学習支援につながっていくという流れにもなっていく。居場所機能と学習支援との関係性を考えていくべき。

3. 生徒の情報共有のための仕組みの構築等

(1) 学校との情報共有のための仕組みの構築

- 学校との情報共有は全国各地で大きな壁になっており、高浜市のようにしっかりとルールを作ってやっていくというのは非常に大きな一歩になる。
- ステップの中でどう成長したかというドラマをうまく学校現場に積極的に伝えていきたい。こういう風な変化が生まれるかもという仮説をもっと教員にもってもらおうと、うまくスムーズに連携が進むし、ステップを活用してもらえる動機が生まれるのではないか。
- 子ども健全育成支援員が教育経験者だから学校も安心して個人情報を出している。評定は個人情報の最たるもの。大学生も知っているのかなど取扱いが大変重要だと思う。仕組みとして行う場合、こうした立場の人がいることが必要。
- 人に依存するのではなく情報管理のルールが大事ということ。守秘義務をどこまでかける

のかという枠組みが必要。

- 情報共有の頻度は、仕組みとして、年2回、3回という回数を決めてやっていき、随時、緊急性が伴う場合は行うというのがよい。
- 大学生もいろんな情報をキャッチしている。こちらがもっている情報もたくさんある。注意が必要な子どもたちに関して、いろいろな立場、役割を持った人たちがその子にとってどういう関わりがいいのかということ話し合う機会が年に2、3回できればいい仕組みが生まれてくると感じている。
- 定期的な情報共有は、説明会のイメージなのか一人ひとりのケースの対応を議論する場なのか決めた方がよい。一人ひとりのケースの議論の場とステップとしての取組状況の報告の場と仕分けた上で提案してもらった方がよい。
- 非行少年に対する情報共有をしている。1件1件だと煩雑なので、全体の流れを決めておく必要がある。大きな枠組みを作ることが大事。
- 包括的な支援というのはとても大事だが仕組みが必要。当面は学習支援に絞って検討すべき。家族支援や福祉的・医療的な支援が必要な場合もあるが、そうした必要性が出てきた場合に違った支援の仕組みにつなげていくという制度設計を考えた方がよい。

(2) 保護者との情報共有のための仕組み・(3) 保護者への支援

- 授業参観については、非常に大事だというのは理解できるが、子どもたちが学んでいる場をいろいろな自分の知らない大人たちが見に来るといのは、少し注意深く慎重に進める必要がある。保護者がどのような形で関わっていただく方がよいのかというのは、検討いただいた上で提案してもらったほうがよい。

4. あすたかの取組と今後の課題について

資料5に記載の内容について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

- 漢字や計算など、進度に個人差があり、学校だけでどうしてもやりきれない子もいる。学生サポーターの力を借りて、学習に自信をもったり、会話をとおして社会性を身に付けたりしてくれるのは、ありがたい。
- 現在は高校生が有志で学習ボランティアに参加しているが、今後は部活動化していく必要があるのかなと思う。年度途中から始まった事業のため部活のかけもちが多くてあすたかに参加できないということもあるが、こうした問題は部活動化することでクリアできる。また、単位を与えることや、文化祭であすたかやステップの活動の発表をすることもできる。
- 保育士や教員を目指している子が参加しているので、部活動化すれば、サポーター研修への参加を義務づけることができる。厳しい講師を招いてしっかりとした指導を受ければ高校生のためになる。守秘義務なども勉強させたい。
- 7～8人の母子家庭の親御さんにあすたかの話をしたら、下の子が小さいことや迎えに行くことが難しいため参加させることができないとの意見がほとんどだった。

- あすたかには愛情不足で問題行動をする子が多く通っているので、色々なところで親御さんをサポートして子どもに目を向けさせて、愛情不足を解消していけばいい。

5. 次回の開催について

委員から、ステップやあすかたに来ている子どもの姿がこの会議の場で共有できるといいとの発言があった。次回は、今年度のステップとあすたかそれぞれの実績や成果の報告も行うこととし、委員と日程調整の上、来年度のなるべく早期に開催することとされた。

(以上)